

「タイサンボク」

廣瀬清一 事務局

6月の初め、大きな白い花を付けた15mを超えるタイサンボクの大木があるのに気付いた。買い物に行く途中に立派な石の門のある寺がある。今まで素通りして境内に入ったことはなかった。少し気が引けたが大木に近づいた。半開きの花からは、軽くスーとしたソフトな甘い匂いがした。



*1)

今回は写真を撮らせてもらおうと思って一礼して寺を後にした。そうこうしているうちに日が空いてしまって、再び訪れた時には、たくさんの白い花を見事に咲かしていたが、手も鼻も届かない高さになっていた。

タイサンボクの漢字表記は『大山木、泰山木、大蓋木』が使われている。

タイサンボクは、北米南東部が原産地である。

サザン・マグノリア Southern Magnolia と呼ばれミシシッピ州とルイジアナ州の州木に指定されている。

樹高は 20m を超える大木で、樹形は雄大で素晴らしい。まさに『泰山木』の名にふさわしい。

日本には明治初期に渡来している。

昂然と泰山木の花は立つ 高浜虚子

5月から7月に、15~25cmにもなる大きく肉厚の白い9枚の花被片からなる花が上向きに優雅に咲く。

大きな盞(盃)のような花姿から『大蓋木』とも表記される。

タイサンボクの学名は *Magnolia grandiflora*。Magnolia (マグノリア) は、18世紀のフランスの植物学者ピエール・マニョル (Pierre Magnol) の名前にちなむ。

grandiflora は「大きな／壮大な」を意味する「*grandis*」と、「花」を意味する「*flos*」の2語の造語で、大きな花に由来する。

タイサンボクの花は、咲き始めは強く、時間と共に匂いを変えていくような記述がある。

はじめは、柑橘系のさわやかな匂いで、次第にクリーミーな甘みと柑橘系の爽やかさをミックスしたようなとてもよい匂いになるという。匂いの成分としては、ゲラニオールやβ-オシメン、β-ミルセン、ドデカン酸メチルなどが報告されている。花の寿命は1~2日と短い。

タイサンボクの仲間のコブシ、ホオノキ、ハクモクレンの花もよい匂いがする。



小林古径『白華小禽』1935 山種美術館

新宿御苑には、明治に植栽されたタイサンボクの巨木が複数本ある。6月初旬は、手の届くところに咲いている。広々した苑内、タイサンボクの花の匂いのする大木の下でゆっくりと時を過ごせたら、どんなに幸せなことだろう。

木の下に子供ちかよりうつとりと

見ている花は泰山木の花 前田夕暮

参考文献

- 1) 賀古老悠遊『タイサンボク』(写真*1)
賀古老 サロン youtube 2023年
- 2) 東浩司『モクレン科の花の匂いと系統進化』
ジャーナル フリー 4巻 1号 p49-61 2004年
- 3) 日本香料協会編『香りの本』232号 2006年
- 4) 麓次郎『季節の花辞典』八坂書房 1999年